

氏名 (生年月日)	^{あい} ^{かわ} 相 川 あ か ね (昭和 58 年 6 月 2 日)
本 籍	東 京 都
学 位 の 種 類	博 士 (医 学)
学 位 記 番 号	甲 第 5 3 4 号
学位授与の日付	令和元年9月30日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
学 位 論 文 題 目	The clinicopathological significance of heterogeneous Ezrin expression in PDCs of colorectal cancers (結腸直腸癌の低分化胞巣における Ezrin 蛋白の特徴的染色パターンに着目した臨床病理学的検討)
論 文 審 査 委 員	主 査 有 沢 富 康 副 査 水 上 創 山 田 壮 亮

論文審査結果の要旨

本研究は細胞のアクチン骨格の制御因子のひとつである Ezrin が大腸癌の先進部位の低分化胞巣 (PDC) や微小乳頭状胞巣 (MP) において不均一に染色されることに着目し、その不均一性が大腸癌の予後規定因子となるか否かにつき検討したものである。独自に作成した指標である Ezrin Corner Score (ECS) を用い、ECS の平均値と ECS 高値の PDC の数を、大腸癌の臨床病理学的指標と対比した結果からは、両者ともリンパ管浸襲や PDC grade, MP-PDC との関連を認め、従来より悪性度を表すとされてきた指標との整合性を認めたが、無再発生存期間に関しては ECS 高値の PDC 数のみが有意な関係を認めた。これらの結果から、申請者は Ezrin は PDC が微小乳頭状胞巣を呈する過程に重要であること、また集団的細胞浸潤から個細胞性浸潤への変換の部分で関与している可能性を明らかにし、見出した指標である ECS が大腸癌の進展や悪性度の評価に有用である可能性を明らかにした。本研究をさらに発展させることは、Ezrin を始めとした ERM タンパク質 family が大腸癌の進展を抑制する新たな Target となる可能性を明らかにするものであり、臨床上新新かつ極めて有用な研究であると考えられる。

以上により、本論文は博士(医学)の学位を授与するに値するものと認められる。

(主論文公表誌)

Cancer Science, 110(8) : 2667-2675, 2019